**八尾市社会福祉審議会　障害者福祉専門分科会の開催経過（令和３年度）**

**１．第１回障害者福祉専門分科会**

　書面にてコミュニケーション条例検討部会設立の承認について審議した。

**２．第２回障害者福祉専門分科会**

　新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み書面にて以下のとおり開催した。

**（１）書面審議期間**

令和４年２月17日（木）から２月28日（月）

**（２）案件**

第４期八尾市障がい者基本計画（以下「基本計画」）、第６期八尾市障がい福祉計画及び第２期八尾市障がい児福祉計画（以下「福祉計画等」）の進捗状況等について

**（３）開催結果**

基本計画の実績（見込）報告書【資料1】、基本計画実績（見込）報告書抜粋版【資料２】、福祉計画等の実績（見込）報告書【資料３】を送付し、各委員よりご意見をいただいた。

また、第３期八尾市障がい者基本計画の実績、コミュニケーション条例検討部会の進捗、次期八尾市障がい福祉計画等の策定における市民アンケート調査の実施予定について報告を行った。

会長より以下のとおり総括を頂戴している。

　〇会長総括

　　　現状把握と今後の課題などが的確に把握されている。資料もわかりやすい。今後、これらを基本にして、各分野の課題の相互関係を明示し、政策を進めていただければよいと思います。具体的な特記事項は以下の通りです。

　①　様々な年齢層や場面における啓発活動を充実させるにあたり、各事業の効果を定量的および定性的に把握すること。精神障がい者など、障がいの種類によっては、より重点的に取り組むこともあるでしょう。「心」への啓発が、望ましい行動をもたらすといった単純な図式ではないので、啓発自体の考え方を議論するのもよいでしょう。

　②　相談支援体制が充実されつつあることは評価できます。同時に、利用者が望む支援が提供されないことも予想されるので、必要に応じて、相談対応の軌跡を検討されるのもよいでしょう。

　③　アドボカシーとして、成年後見やサービス利用支援が障がい者に使いやすいのかどうかを検討することも重要でしょう。また、八尾市として障害者差別解消法に応じた対応をどうするのかを今後検討する必要があります。

　④　新型コロナウイルスは利用者のみならず、社会福祉関連事業全体の事業継続に甚大な影響を及ぼしています。これを機会に、現実的な事業継続計画を考える必要があるでしょう。

　⑤　コミュニケーション支援について、当分科会において議論しています。この言葉の意味が広いために、議論の整理は難しいものの、議論は、障がい者とそうではない人、障がい者同士の関係性などをあらためて考える機会になっています。

⑥　2022年度のアンケートは、新型コロナウイルスの影響など、新たな項目が必要になると思われますが、質問項目を絞り、政策立案のエビデンスに資するものになればよいと思います。